

会報 看護 とうきょう

2026. March
Vol.142

Nursing in TOKYO

令和8年度 事業運営方針

特集 地域をつなぐ看護の力
―看看連携の今とこれから―

保助看 自分らしく働き続ける看護職

公益社団法人
東京都看護協会
TOKYO NURSING ASSOCIATION

ごあいさつ



公益社団法人東京都看護協会
会長　柳橋　礼子

会員の皆様には日頃より東京都看護協会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。2026年になり、2040年を見据えた新たな地域医療構想の策定・推進が本格化する時期に入ってまいりました。また生産年齢人口の減少が及ぼす影響は現実のものとなりつつあり、多くの産業分野でDX、AIの急速な活用が進んでいます。医療・看護でも、業務効率化や質改善を目的とした技術開発とその実用化が期待されています。

令和8年度は医療機関による地域社会への継続的な看護サービス提供をめざした体制づくりに役立つように、国や東京都の政策・制度に加え、未来への鍵となる革新的な技術や情報が共有できる事業を展開していく予定でございます。また、ウェルビーイングを大切にした、職務にやりがいをもてる組織づくりを皆様と考えてまいりたいと思います。引き続き、社会人基礎力の習得や全ての領域で求められるマネジメント能力向上など、生涯学習プログラムの提供に努めてまいります。

これからも会員の皆様のニーズに沿った情報交換や交流の場をめざして事業を進めてまいります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和８年度事業運営方針　―定款に基づく４本柱―

1 社会・地域の看護ニーズへの対応のための看護提供体制の強化

持続可能な看護提供体制の構築のための支援

◇看護職ネットワーク強化のための交流の場の活性化

◇新たな地域医療構想をふまえた看護職の活動への支援

看護機能の強化に向けた事業実施と政策的アプローチの推進の支援

◇あらゆる領域の改善活動の共有と看護管理者への支援

◇改善事例の成果を活用した政策提言

健康危機発生時に備えた準備への支援

◇災害拠点病院の看護職を中心としたネットワークの推進

◇自然災害および感染症危機管理に備えるための施設の体制構築と人材育成

2 看護職の生涯学習支援と看護の質向上

看護職のウェルビーイングの向上と看護の質向上をめざした交流の場の提供

◇看護管理上の課題共有を目的とした交流への支援

◇看護の魅力を実感できる取り組みや事例の共有の促進

専門職としてのキャリア形成と看護職のニーズを反映した生涯学習支援体制の構築

◇生涯学習ガイドラインの具現化のための継続的な学習プログラムの提供

◇施設で提供する学習プログラムと教育担当者への支援

3 看護人材の確保と定着促進

看護職の処遇改善と働きやすい職場環境改善への支援

◇看護職の職業人生の再考とプラチナナースが活躍できるための就業環境の整備

潜在看護職の就労促進

◇人材確保対策のための情報発信と就業支援

看護補助者の確保と活用への支援

4 組織の強化

職能団体として組織強化と安定した協会運営に向けた取り組み

◇会員ニーズを最優先とする事業展開

◇会員や賛助会員との相互協力による事業の推進

◇城北看護ステーションにおける公益事業の拡大と機能強化

未来の看護職に向けた活動

◇地域・学生・若者層に向けた看護職の魅力発信

2040年問題を見据え、医療や介護は大きな転換期を迎えています。
入院治療後も地域や自宅で療養を続ける人が増え、
療養の場は病院から在宅へと移りつつあり、病院と地域をつなぐ
看護職の役割は、ますます重要になっています。
一方で、病院から在宅への移行に際しては、引き継ぎ不足や
情報共有の難しさなど、連携の課題も少なくありません。
地域全体の看護力を高め、専門性の高い看護職を地域へつなぐ
取り組みは、今後の医療を支える重要なテーマといえるでしょう。
地域を支える「看看連携」の取り組みを取材しました。



特集

地域をつなぐ看護の力
—看看連携の今とこれから—
病院・地域で働く看護師が座談会で語る

**病院と地域の看護師を
つなぐ取り組み**

協会Web特設サイトに
インタビューの全文を掲載！
二次元コードからぜひご一読ください

https://kaiin-tokuten.tna.or.jp/tokushu202603/

地域と病院の看護師をつなぐ「架け橋」に



日本郵政株式会社 東京逓信病院
患者支援センター・医療連携支援センター 看護師長
菊地 良子 さん

東京逓信病院の患者支援センターで、入退院調整やがん相談などを担当しています。現在の連絡手段は電話やファクスが主ですが、地域で進むICT活用のお話を伺い、連携の新たな可能性を感じました。これまでの連携で印象深いのは、訪看の三橋さんと密に連絡し、複雑な家庭事情の患者さんを支援した事例です。私たちの信頼関係が、ご本人やご家族の安心感に直結すると実感しました。そのためにも、地域の情報を私がしっかりと受け止め、病棟看護師へ伝えるように努めています。今後は、病院の看護師が地域の実情を知る機会を積極的につくり、互いの看護を知ることで、スムーズな連携につなげたいと思います。座談会での学びを若手看護師に伝えて、病院全体の看看連携力を底上げしたいと考えています。

—詳細はWebで—

看護師同士だからこそ実現できる連携を



株式会社ステラ 九段訪問看護ステーション 所長
三橋 馨 さん

九段訪問看護ステーションで、管理者と実務を担っています。地域の看護職・多職種間では連携用ツールを活用したリアルタイムな情報共有も増えてきています。また、複雑な家庭事情を抱える患者さんの事例では、病院の菊地さんとの頻繁な情報交換によって入退院の支援をしました。デリケートな事情を、訪看から病棟看護師に的確に伝えるのはなかなか難しいものです。しかし、まず菊地さんに伝えて、そこから病棟の看護師全体に共有していただくという、理想的な連携ができました。病院との調整はソーシャルワーカーを介することも多いですが、専門的な医療情報の伝達には苦労されている場面も見受けられます。そのため、医療情報を的確に読み解ける看護師同士の連携が重要だと感じます。今後は、デイサービスや施設などで働く看護師とも交流を深めて、地域全体の連携を強化していきたいです。—詳細はWebで—

看看連携の土台は「顔の見える関係」



社会福祉法人東京栄和会
高齢者あんしんセンター麹町
二上 純子 さん

高齢者あんしんセンター麹町（地域包括支援センター）で、主に高齢者の生活や介護に関する相談業務を行っています。ICTは、従来の情報共有法によるタイムラグを解消する、有効な手段だと感じています。がん患者さんの在宅療養時、連携用ツールで体調変化を共有したことで、訪問診療や事業所が即座に動く様子を目の当たりにしました。また、迅速な連携には、「顔の見える関係」が大切です。訪看の三橋さんは、困難な事例や緊急時でも快く引き受けてくださるため、「安心してお願いできる」という信頼感があります。現在、地域では身寄りのない高齢者の意思決定支援が課題です。今後は、病院の認定看護師にお願いして、人生会議（ACP）の講習会を実施したいと考えています。個別のケース対応にとどまらず、看護の専門性を地域の課題解決に活かすような、幅広い連携を目指していきたいです。—詳細はWebで—

地区支部だより

東部 地区支部

地域包括ケア推進への羅針盤
―第34回東部地区支部看護研究実践報告会―

社会福祉法人仁生社江戸川病院　看護師長　沓掛和之(広報委員)



演題ごとの視点を深める、
松田先生の的確なフィードバック

東部地区支部の特色ある活動の1つである「看護研究実践報告会」を、令和7年11月15日に開催しました。臨床に直結する「実践知」の共有を軸に、今年度は、看護補助者による発表が加わり、多職種連携の重要性を確認しました。

特に、地域との連携という点では、地域包括支援センターはなはたの内田氏(保健師)の報告が新たな視座をもたらしました。地域包括ケアの現場で直面する単独配置の負担、「病院では常識」である手続きや支援のあり方が地域で通用しない現実などが率直に語られました。行政・医療・介護の連携の課題についての具体的な事例は、病院・施設勤務の看護師にとって新鮮かつ実践的な学びとなりました。さらに、静岡県立大学准教授の松田順先生からは、全9演題に対して示唆に富む講評をいただき、議論が一層深まりました。

こうした多様な立場からの知見は、地域包括ケアを担う看護職が、縦割りを超えて課題を共有し、今後の連携を具体的に進める一歩となりました。



地域包括ケアの課題が語られ、会場が一体となって課題意識を共有する瞬間

西部 地区支部

口腔ケア教育体制構築と地域での口腔ケア連携

杏林大学医学部付属杉並病院　看護部長　秋山陽子(支部長)

当院では、口腔内衛生管理を重要な看護ケアと位置づけ、「口腔ケア院内認定制度(初級・上級・インストラクター)」を構築し、令和6年度より運用を開始しています。初級では、Oral Health Assessment Tool (以下OHAT)および口腔ケアプロトコールに基づく基本手順を習得し、上級では機能的口腔ケアや摂食機能療法に関する知識と実践を深めます。認定者も着実に増加しています。

インストラクターは院内外での教育・指導を担い、現在は近隣の介護老人保健施設を定期訪問し、入居者へのOHAT実施や職員への教育支援を行っています。この取り組みにより、施設職員にも初級認定者が生まれ、地域全体での口腔ケアの質向上につながる第一歩となっています。

今後も院内で培ったノウハウを地域へ広げるアウトリーチ活動を積極的に展開し、医療と介護の垣根を越えた連携を深めながら、高齢者の誤嚥性肺炎の予防に貢献していきます。



老健看護師長とのディスカッション



先陣を切って認定された口腔ケアインストラクター

南部 地区支部



たくさんの方が参加してくださった2月の『目黒看看ネット』



『目黒看看ネット』ご案内ちらし

在宅と病院の看護連携
～目黒区の取り組み～

東京共済病院　看護部長　中川美和(支部長)

南部地区の目黒区では、2025年2月に『目黒看看ネット』を発足しました。

目的は「地域でより質の高い医療・看護が提供できるために、病院と在宅との看護連携を図る」です。

日頃から顔の見える関係づくりに取り組んできた病院の看護管理者数名が集まり、意見交換を重ねたことをきっかけに、区内訪問看護事業所の定例集会へ参加し、施設の垣根を越えた定期的な連携の場をもちたいと提案したことで活動が始まりました。

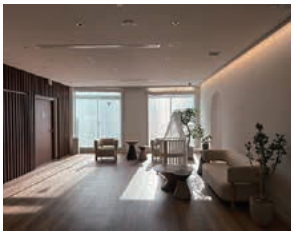
活動内容は、各施設の紹介に始まり、前回は看護サマリーをテーマにグループディスカッションを実施しました。自由参加型で、これまでに4病院15事業所から多くの看護職の方々にご参加いただいています。今後も連携をさらに深め、患者さんや地域住民の方々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、ネットワークを広げてまいります。次回の開催は、2026年5月頃を予定しています。

中部 地区支部



水面のゆらめきを感じさせる空間の演出


光庭を中心としたコリドール「散歩道」


既存のアーチ型開口をデザインに生かしたロビーラウンジ

地域の子育て支援
～周産期センター・クリニック・産後ケアステーションの連携による継続支援をめざして～

恩賜財団母子愛育会 愛育病院・愛育クリニック・愛育産後ケアステーション
副看護師長・助産師　斎藤友紀子（会計）

当院は港区芝浦に総合周産期母子医療センター、麻布にクリニックを構え、長年にわたり地域の周産期医療を担っています。近年、全国的に分娩数が減少する中で産後ケアの重要性が高まり、令和5年9月より、クリニックに併設する形で産後ケアステーションを開設しました。宿泊型15床、日帰り型10床を備え、助産師・看護師・保育士がそれぞれの専門性を活かしながら、乳児（宿泊型は5か月未満、日帰り型は1歳未満）とそのご家族を支援しています。乳房ケア、育児相談、産後の心身の回復支援などのニーズに応えるとともに、各自治体と連携し（周産期センター内の産後ケアは港区と、産後ケアステーションは複数自治体と委託契約）、ご家庭での育児支援へとつなげています。

施設は3つに分かれていますが、看護部は一体で運営しているため連携がスムーズで、継続したケアを提供しやすい体制となっている点は当院の大きな強みです。今後も地域の子育て支援に積極的に貢献してまいります。

各地区支部の活動報告詳細は協会Webサイトで
https://www.tna.or.jp/kyokai/branch/

多摩北 地区支部

地域包括ケアを支える看護の力

公立阿伎留医療センター 看護部長 薬袋知子（支部長）

多摩北地区支部は、会員数3,999名（令和8年1月現在）で、地域包括ケアシステム構築の推進と、地域住民の健康増進を活動の柱として、年間を通じて多様な事業を企画・実施しています。

1. 地域と看護職をつなぐ活動

地域住民向けの取り組みとして、定期的に「看護協会まちの保健室」を開催しています。地域住民が気軽に健康相談や交流ができる場を提供し、地域における看護職の役割を身近に感じていただくことを目的とした重要な活動です。

2. 特色ある研修

会員のスキルアップを目的に、年間7回の研修を企画・実施しています。令和7年度は、地域包括ケアの核となるテーマを中心に、ACPの基礎知識、在宅と病院の連携に関する内容の研修を企画しました。また、看護職が働き続けるための支援として、管理者のメンタルヘルスに焦点をあてた企画も取り入れました。

今後も看護職のニーズに応える質の高い企画に取り組み、地域看護のさらなる発展に貢献してまいります。


「褥瘡ケアの基本―病院から在宅まで―」の研修の様子

多摩南 地区支部






「まちの保健室」の様子

地域とともに歩む多摩南の看護活動

榊原記念病院 副院長兼主任看護部長 池亀俊美（支部長）

多摩南地区支部では、地域包括ケアの推進に向け、看護職の連携を深める活動を継続しています。昨年度からは「顔の見える関係づくり」をテーマに、府中市・調布市老健の集いを通じて、感染対策やACPの実践に向けた取り組みを共有してきました。現場での知見を分かち合うことで、よりよいケアの実現を目指しています。

また、「看護協会まちの保健室」では、参加者との対話を通してACPの普及を図り、「わたしの思い手帳」を活用した支援を行っています。季節に応じた健康テーマ（例：暑さに負けない体づくり）も取り入れて、健康意識の向上につなげています。看護学生も参加し、地域看護を学ぶ貴重な機会となっています。

今後も地域に根ざした看護を目指して活動を続けてまいります。

保健師

新宿区役所総務部人材育成等担当課
健康相談室
神楽岡澄（かぐらおかすみ）さん



置かれた場所で「生涯看護職」として咲き続ける

主に職員の健康管理や健康相談、病気休職者の支援などに携わっています。大学病院で病棟看護師としての経験を積んだ後、新宿区の保健師として保健所や保健センターで、感染症・精神保健・難病などの対策に34年間従事しました。退職後、2018年に現在の職場に異動し、保健師として勤務しています。私は、「置かれた場所で咲く」の精神でまずは取り組んでみる信条なので、現在の仕事をお引き受けすることにしました。職場が保健所から区役所職員の健康管理を担う部署に変わっても、「人の健康を支援する」という保健師の本質は変わりません。支援した休職者が元気に復職する姿を見るたび、現在の仕事へのやりがいを感じています。70歳を迎えても、これまでの自分の経験と技術を活かして看護の仕事に携わっていきたいです。

保　助　看

自分らしく働き続ける看護職

～人生100年時代の働き方～

https://kaiin-tokuten.tna.or.jp/hojyokan202603/

フルバージョンはこちら！

助産師

ノア助産院 院長
新居信子（あらいのぶこ）さん



ほしい未来は自分で取りに行く

病院勤務時代、1か月健診をしていたとき、「お母さんたちのその後は大丈夫なのだろうか」と思ったのをきっかけに、助産院を開業しました。現在は、日帰り産後ケアやグリーフケア、無料のパパ会も開催しています。根底にあるのは「困っている人がいたらまず助けなさい」という父の言葉。54歳で経営系の大学院に入学したのも、「助産院が赤字で潰れていく現実を変えたい」と思ったからです。学びを深めるなかで、助産師としての知識や技術だけでは守れないものがあると知り、今後は開業助産師の支援もできればと考えています。若い世代には「失敗してもいいよ」と伝えたいです。失敗も迷いも全部、振り返れば自分にとって間違いなく財産になります。自分の未来は、誰かが用意してくれるのを待つだけでなく、自分で動いて自分らしいキャリアを築いていってほしいですね。私自身も、まだまだその途中にいますから。

看護師

JCHO 東京新宿メディカルセンター
総合案内
伊藤久美子（いとうくみこ）さん



総合案内で続ける私らしい看護

気づけば、20年も総合案内で「病院の最初の顔」として立っています。初診・再診の手続き、面会受付、クレーム対応、認知症の方やご家族が立ち寄れる「オレンジステーション（＊）」としての役割までと幅広い業務です。予想外の依頼も多いですが、目の前の患者さんの不安が解け「ありがとう」と笑ってくださる瞬間が、仕事を続ける原動力です。仲間や家族の支えと患者さんからいただいた思いを忘れずに、心と身体が動く限り、自分らしく働き続けたいと思っています。今の若い皆さんは知識も能力も高いので、諦めずに看護という仕事を続け、恐れずにキャリアアップを目指してほしいと思います。私も、今も現役で働く先輩看護師の方を目標にまだまだ挑戦中です。パソコンやAIも使いこなせるようになりたいですね。

＊認知症や病院に不案内な方が、いつでも気軽に立ち寄っていただける場所

つながる、ひろがる、看護の魅力！

看護のお仕事応援フェア



―その一歩、東京都ナースプラザが応援します―

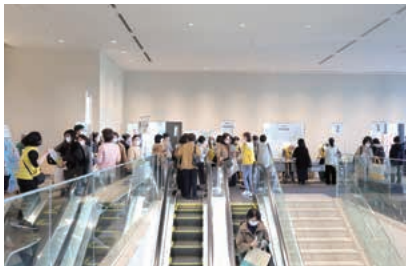
スキルアップも、再スタートも、
あなたらしい看護の未来へ。

東京都ナースプラザでは、看護職・看護補助者の方や施設を対象に、さまざまな事業を展開しています。
その一環として、令和7年11月22日に御茶ノ水ソラシティにて「看護のお仕事応援フェア」を開催しました。
当日は、100施設が出展した就職相談会をはじめ、採血・留置針、12誘導心電図、標準予防策の体験コーナーや、薬剤師による正しい与薬方法のレクチャーなど、多彩なプログラムを実施しました。

―「**スキルアップしたい**」「**ブランクがあるけれど、もう一度現場に戻りたい**」「**自分にできるか不安**」―

そんな声に寄り添いながら、東京都ナースプラザは、次の一歩を踏み出す皆さまをこれからも全力で応援していきます。
看護職・看護補助者の皆さまを支えるさまざまな事業を実施していますので、ぜひ東京都ナースプラザをご活用ください。

＊次回は、令和8年10月24日(土)開催予定



明るい雰囲気の中、来場者が続々



相談会では新しい出会いや発見が



不安解消へしっかりサポート

開催概要

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
開催日時：令和7年11月22日(土) 10時00分～16時00分

開催実績

来場者総数　435名

◉就職相談会
出展施設：100施設、参加者：314名

◉相談・案内コーナー　199名
復職支援研修案内、就業・資格取得相談
就業・定着奨励金、プラチナナース向けイベント案内、
東京都の島しょ・山間地医療のご案内、
東京都看護教員募集案内など

◉実技体験会

採血・留置針の体験コーナー	226名
12誘導心電図の体験コーナー	167名
内服薬の正しい与薬方法	128名
標準予防策(スタンダードプリコーション)	93名
電子カルテの紹介・体験コーナー	120名
看護補助者のお仕事紹介コーナー	21名

＊各コーナーの参加人数は延べ人数です

東京都ナースプラザ　設置主体 東京都　運営受託者 公益社団法人 東京都看護協会

ホームページ

令和7年　秋の叙勲

受章おめでとうございます

敬称略

瑞宝双光章	椎橋（しいはし）　依子（よりこ）	元 東京都立駒込病院 看護部長
瑞宝単光章	阿部（あべ）　珠美（たまみ）	元 東京都立東部地域病院 看護部長

＼あなたの意見を聞かせてください／

看護協会　会員モニター募集

東京都看護協会では、会員サービスの充実を目的に、令和8年度より「会員モニター制度」をスタートします。モニターの方には、協会主催の研修・学会等に参加していただき、その感想やご意見をアンケートや座談会などでお寄せいただきます。

皆さまの声を、今後の事業改善や新たな企画作りに活かしていきます。「協会をもっとよくしたい」「研修を体験しながら意見を届けたい」そんな思いをお持ちの方、ぜひご応募ください。

詳細・応募はウェブサイトをご確認ください。

https://www.tna.or.jp/nurse/committee/monitor/

公益社団法人東京都看護協会　役員等の選挙について

令和8(2026)年6月18日(木)に開催される「令和8(2026)年度通常総会」の終結をもって任期満了となる役員及び推薦委員について、下記により選挙を実施いたしますのでお知らせいたします。

選挙期日 令和8(2026)年6月18日(木)

開催場所 公益社団法人東京都看護協会会館　1階大研修室1A・1B

立候補受付について

役員等に立候補する会員は、他の5名以上の会員の推薦を受けて、所定の様式(立候補届出書・立候補者推薦届)に必要事項を記入の上、令和8(2026)年4月6日(月)から4月10日(金)までに、公益社団法人東京都看護協会　選挙管理委員会　事務局まで届け出てください。所定の様式が必要な場合は、右記までご連絡くださいますようお願いいたします。

公益社団法人
東京都看護協会
選挙管理委員会事務局

〒160-0023
東京都新宿区西新宿
四丁目2番19号

TEL：03-6300-5139

改選役職名及び改選数

役職名	改選数
会長	1
副会長(助)	1
常務理事	1
財政担当理事	1
職能理事(保)	1
准看護師理事	1
地区理事(東部)	1
地区理事(中部)	1
地区理事(多摩南)	1
監事(会員)	1

会報表紙　新たなテーマが始まります
あなたの職場の魅力で
「看護とうきょう」の表紙を飾りませんか

テーマ　「わたしたち看護部門の魅力」
　チームの一体感、看護ケアの場面、地域との連携、設備・環境、研修風景など

応募資格
　東京都看護協会　会員

応募規定
1　応募者が所属施設で撮影した写真1～2枚
2　被写体・施設の許諾を得ているもの
3　オリジナル作品　盗用不可
4　電子データ　JPEG形式
5　応募の際は容量800KB以内に落としたデータを送付

詳細募集規定、応募先、応募方法につきましては右記URLよりご確認ください。皆さまの施設における看護の魅力や特色を広く伝える機会として、ぜひご応募ください。

https://www.tna.or.jp/nurse/enrollment/newsletter/cover/



〈東京都庁 都民広場〉
東京都新宿区西新宿2-8-1

写真タイトル
TOKYO Glow

撮影者
きっく 様

東京都庁都民広場で行われた東京プロジェクションマッピング「TOKYO Night & Light」。東京の夜空を背景に、都庁舎が色鮮やかな光に包まれる光景は圧巻でした。土曜の夜、多くの人が見上げるなか、音と映像が一体となった幻想的な瞬間を撮影しました。未来へ向けて輝く東京のエネルギーを感じるひとときでした。

会員サービス係からのお知らせ

2026年度
会員募集中！

会員数　39,188人
2026年1月28日現在



https://kaiin.nurse.or.jp/members/JNG000101

キャリナース

こんなときに便利！
・氏名(改姓)、住所変更、所属施設変更
・会費領収書の発行、口座情報の変更
・電子会員証で「会員番号」の確認

会員情報の変更は、「キャリナース」が便利です

所属施設や自宅住所を変更される場合は、会員情報の変更手続きをお願いします。
スマートフォンから簡単にお手続きいただけます。
ご登録の上、ご利用ください。



発行
公益社団法人
東京都看護協会

〒160-0023
東京都新宿区
西新宿4-2-19
https://www.tna.or.jp/
TEL.03-6300-0730(代)

発行人
柳橋礼子

編集協力
株式会社 物語社

令和8年(2026年)
3月16日発行